

平成 24 年度決算総括質疑の概要

平成 25 年第 3 回二宮町議会定例会

日時 平成 25 年 9 月 17 日 (火) 午前 9 時 30 分より

No.	質問議員	質問の概要 (本人の提出原稿)
1	添田孝司 議員	<p>平成 24 年度予算は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大地震の影響で電気供給が不安定な中、企業業績の改善が見られない不透明な状況が地方財政に暗い影響を落としていたことから、一般会計は対前年比 1.6%減の 75 億 1 千 200 万円でした。しかし、平成 25 年 3 月補正後の最終歳出予算現額は 83 億 2 千 221 万 4 千円に大きく増額されました。これはアベノミクスの緊急経済対策に沿って町道 271 号線及び町道 27 号線橋りょう補修事業とせせらぎ公園木道改修工事の土木費及び二宮小学校大規模改修による教育費の合計約 3 億円が補正予算化されたことや東大跡地購入が遅れ、4 億 5 千万円が事故繰越しとして 24 年度予算に加えられたことなどによるものです。そして決算支出済額は 76 億 9 千 887 万 1 千円となりました。3 月補正で予算化された上述 3 事業経費約 3 億 3 千 5 百万円が 25 年度予算に繰越明許費として繰越されましたが、東大跡地購入費 4 億 5 千万円は含まれています。支出済額から東大跡地購入費を差し引くと約 72 億 5 千万円となり、当初予算を約 2 億 6 千万円下回ります。町長は施政方針で最小のコストで最大の効果が得られよう各事業に取り組むと述べられましたが、経費削減がなされ実践されたと評価します。</p> <p>では、平成 24 年度予算に対する、町長施政方針の特に 3 つの重点プロジェクトに沿っていくつかの事業について質問します。</p> <p>1 つ目は「町の基盤再生プロジェクト」です。</p> <p>1-1 町を支える産業の活性化で特産物普及奨励事業としてオリーブの普及奨励を新たに始めました。オリーブは収穫すれば八百屋さんやスーパーなどで売れるものではなく加工して売れば工芸作物です。オリーブオイルは搾油の仕方で品質が異なります。高額な商品となるエキストラバージンオイルとするには酸化等による劣化を防ぐため収穫後 24 時間、遅くとも 48 時間以内に搾油しなくてはならないと本には書かれています。また、品種の違いによる味の違いも大きく世界の各産地ではそれぞれの適正品種の特徴を謳っています。よって、品質、味、価格など顧客ニーズを的確につかみ商品化するというきわめて難しい作物であると思われます。一方栽培農家も経済的に採算が取れなくてはなりません。搾油機を個々の農家が持ちマーケティング戦略を立て販売することは不可能なので、町全体でオリーブオイル販売戦略を立て栽培奨励をすべきと考えますが如何でしょうか。</p> <p>2 つ目は「誰もが安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」です。</p> <p>2-1 「若い人が安心して暮らし、子育てできる環境整備」として平成 24 年度に育児・発達支援事業として、未就学児童の保護者や、保育園・幼稚園の従事者に対し、こどもの発達や言葉の遅れ、親子への関わりなど、臨床心理士によるサポートを始めました。また、町は子ども育成課を平成 25 年度に新設し、子育て支援関連事業の集約化を行い今後の子育て支援の更なる充実を図ろうとしています。</p> <p>一方、国は消費税引き上げを財源として、子ども・子育て支援法等 3 法に基づき、新たな子ども・子育て新支援制度を構築しようとしています。具体的には国の指針に従い市町村が子ども一人一人に客観的基準に基づき保育の必要性の認定を行い、認定書を発行するというものです。二宮町では、この新制度によって乳幼児の子育て支援は具体的にどのように変わるのでしょうか。</p> <p>2-2 地震や風水害の災害から町民の生命と財産を守る趣旨で災害対策基金は設立されました。平成 24 年度では基金に 2 千 313 万 1 千円が積立てられ、25</p>

		<p>年度も9月補正予算で1千万円積立てられようとしています。地震の脅威は衰えませんが、それに加え、最近の1時間に100mmを超える局地的な豪雨の頻度の多さと被害の大きさには驚かされます。二宮町も今年の4月6日に1時間に50mmを超える豪雨に襲われ土砂崩れによる被害が出ました。防災マップに県知事が指定した急傾斜地崩壊危険区域が記されていますが、町独自でも災害予防に向けた調査や事前の予防対策事業が必要と思いますが、如何でしょうか。基金は予防対策費としても使うこともできますが、基金を使うことはどうでしょう。</p> <p>3つ目は「町の体制づくりプロジェクト」です。</p> <p>3-1 公会計基準モデルで作成した平成23年度の財務諸表と公共施設白書が平成24年度に作成されました。町には東大跡地など未利用資産がいくつかあります。一方、各公共施設の老朽化に伴い今後は順次更新や改築の時期が迫ってきています。長期展望を持ってそのための財政確保、緩やかな資産の再配置や整理、そして有効活用を町民と行政、すなわち、町全体で考えていかなければならないと考えます。そこで、公共施設の再配置計画が立てられるような公共施設白書の更なる充実と、非常に難しい公会計基準モデル財務諸表を町民が理解できるように丁寧な解説と使い方など工夫すべきと思うのですが如何でしょうか。</p> <p>3-2 最後に行政評価と行政改革についてご質問いたします。</p> <p>前文で述べたとおり、平成24年度決算では対前年比で経常的なコストの削減が見られ一定の行政評価や行政改革の成果が出ていると思います。経費の正常化を求め、施策と事業の最適化や優先付け、資産の適正化、業務効率化等を行うために継続的な行政評価や行政改革が益々重要となると思います。</p> <p>二宮町まちづくり評価委員会による平成23年度二宮町行政評価に関する意見書で多くの提案や指摘が出されており、町の施策にも反映されているようです。平成24年度の行政評価状況は如何でしょうか。</p> <p>また、平成26年度が二宮町行政改革大綱5年間の最終年で、平成24年度はちょうど中間の年度です。5つの基本項目からなる広範な改革プランですが、その中の基本項目「事業の再編・整理、廃止・統合」と「財政基盤の強化」について今までの成果と今後の課題について総じて町の考えをお伺いしたい。</p>
2	脇 正文 議員	<p>I. 町基盤再生プロジェクト</p> <p>1. 町を支える産業の活性化から商工振興対策に対して</p> <p>★「町の顔である駅前商店街のにぎわいイベントを企画し、商店街活性化の起爆剤となるよう取り組む。相乗効果として町の魅力をPRしていく」について</p> <p>町の顔となる駅前商店街がにぎわうことは、町全体や町民に活気があふれていることになり、電車に乗り町を通過する人や駅を利用する人は大きな関心を持ち、二宮ってどんな町だろう、住んでみたいと思う人も出てくると考えられる。よってこの施策は、大変重要な意味を持っていたと思う。そこで次のことについてお聞きしたい。</p> <p>①平成24年度まで数年に渡り実施されてきた駅前商店街に対する商工振興対策について、企画目標に対してどれだけ達成でき、その結果、どれだけの活性化の起爆剤となり波及効果を生み、それからどのような相乗効果が生まれ、町の魅力をPRできたのか。</p> <p>②平成25年度は北口商店街に変わっているが、今後の振興対策に反映させられるものなのか、お聞きしたい。</p> <p>2. 美しい自然環境保全</p> <p>★吾妻山公園再整備や(仮称)風致公園整備について</p> <p>吾妻山公園には他市町村だけでなく県外からも多くの人を訪れ、日本中にその名を知られる有名な公園になっている。吾妻山公園開園以来引き継がれてきた公園の良さを更に活かすために町長は様々な苦慮を重ね再整備計画を実施されたと思う。</p>

		<p>そこで、吾妻山公園再整備終了とこれから始まる(仮称)風致公園整備に関し町長はどのようなものを美しい自然環境と考え、その考え思いを活かすためにどのような保全整備を考えてられるか。</p> <p>II. 町の体制づくりプロジェクト</p> <p>1. プロジェクト推進のための財源確保</p> <p>★町が保有する不動産を売却・整理し、財源の確保を図ることについて</p> <p>町の体制づくりを進めるために様々な施策が講じられることは当然のことである。しかし、財源確保のために今ここで売却整理したことは、大きな理由と決断が必要だったと考えられるが、次のことについてお聞きしたい。</p> <p>①プロジェクトの何を推進するために幾らの財源を必要としたのか。</p> <p>②売却整理することによりその財源全体に対しどれ位の確保となったのか。</p> <p>③正泉寺を初めとする他の町保有地には手つかずのものがあるが、これらはプロジェクト推進のための財源確保として、売却整理する予定であるのか、売却せずに有効利活用のため残すつもりであるのか。</p> <p>2. 重点プラン3 人と環境のさわやか健康プラン 「環境保全による緑豊かな美しいまちづくり」</p> <p>★公共下水道整備事業について</p> <p>現在我が町の川は昭和 40 年代からすると河川環境は非常に良くなったと言える。これは各家庭へのごみなどに対する町の働きかけと現在進められている下水道整備による効果が大きい。しかし、現在の整備事業は市街化区域と市街化調整区域の単純な線引きの元で行われ、市街化区域で進められている。しかし、多くの町民が住んでいる市街化調整区域に対しては現在のやり方では疑問を呈する。</p> <p>①100%整備とするならば、24 年度を終えて整備事業計画はどこまで進み、今後どのような事業見通しをたてているのか。</p> <p>②美しいまちづくりを進めていきたいが、もし 100%整備は期間的にも物理的にも難しいと思われているならば、公共下水道が通らない民家には合併浄化槽導入を斡旋するなどの対策を図るべきだと考えるが、町長の考えをお聞きしたい。</p> <p>3. 重点プラン5 町民みんなの個性輝きプラン 「行財政運営」</p> <p>★ 自主財源確保＝施設使用料の団体に対する 1/2 減免措置を廃止について</p> <p>施設利用団体の殆どが新年度の行事・予算計画を決め新年度のスタートを切ろうとした時に突然発表された減免措置廃止。使用料を自分で払える大人の団体は何とか持ちこたえても、保護者からの会費で運営している子どもの団体は大きな影響を受けている。実際、廃止後の使用料収入は増えたが、実質的には団体の使用回数は減っている。</p> <p>①そこで、減免廃止により見込み確保できる金額は急に確保しなければならないほどのものだったのか。</p> <p>②自主財源確保はどの自治体も大変なこと。確保のためには出ていくお金を抑える方法もあるが、今後もこのようなやり方を取っていかなければならないと考えられているのか、お聞きしたい。</p>
3	二見泰弘 議員	<p>平成 24 年度決算についての町長の見解を伺います。</p> <p>平成 24 年度一般会計歳入総額 79 億 7,177 万 6 千円・歳出総額 76 億 9,887 万 1 千円になり、形式収支は平成 23 年度 7 億 2,799 万 6 千円でしたが、平成 24 年度は 2 億 7,290 万 5 千円で 4 億 5,509 万 1 千円の減になりました。実質収支におきましては、平成 23 年度 2 億 7,060 万 1 千円でしたが、平成 24 年度は 1 億 7,732 万 7 千円で、単年度収支におきましては、9,327 万 4 千円の赤字になり財政は益々厳しくなるとうかがえます。また、一般会計の町債残高に</p>

つきましては、平成 23 年度 72 億 2,858 万 8 千円・平成 24 年度 73 億 1,381 万 6 千円であり、前年度に比べ 1.2%・8,522 万 8 千円増となり、町民 1 人あたりの借金は 250,886 円で 4,387 円の増になります。健全化判断比率については、4 項目とも早期健全化基準以下ということで健全であると判断しますが、他の比率におきましては、経常収支比率が平成 22 年度 91.8%・平成 23 年度 93.5%・平成 24 年度 94.2%と硬直化が進んでおり、また財政力指数も平成 23 年度 0.796%・平成 24 年度 0.770%と年々落ちており、警戒をしなければならないと思います。このような財政危機と思えるような平成 24 年度決算額についての町長のご見解を伺います。

次に、収納率向上対策事業について伺います。

町の税収問題について、収納率向上対策として、専門徴収員や役場職員の皆さんの努力により、町税滞納も減少しておりますが、滞納額は平成 23 年度は 1 億 5,166 万 8,146 円・平成 24 年度は 1 億 3,153 万 6,418 円とまだまだ多額な滞納があります。このようなことから小田原市は、市税滞納対策に対して、平成 12 年に「小田原市市税の滞納に対する特別措置に関する条例」を制定しました。「他の法令との整合性や個人情報保護、住民の権利保護」など課題はありますが、二宮町でも今後徴収員の後ろ盾としても、条例制定に必要性が高いと思いますが、ご見解を伺います。

次に、二宮町道路占用料徴収について伺います。

平成 13 年に改定施行されている、道路占用料について施行から 12 年がたちますが、一度も使用料の改定がされていません。平成 24 年度の歳入については、電柱等設備使用料 4 社 1,751,820 円・ガス供給管理設使用料 4 社 6,520,410 円・電話線等埋設使用料 9 社 9,970,510 円・停留所標識等設置使用料 2 社 227,990 円など多額な料金の収入がありますが、近隣市町との料金設定にもばらつきがあり、町民は町施設の使用料も値上げされており、この辺で道路占用料の改定の検討をする時期ではないかと推察されますがご見解を伺います。

次に、特産物普及奨励事業について伺います。

二宮町の特産品として、落花生・湘南ゴールド・オリーブを普及奨励し、農業再生の一助とする事が目的として掲げられていますが、湘南ゴールドの果実を町内商業者に配布し、試験利用してもらう事で、販路及び加工についての可能性を調査することになってはいますが、進捗状況を伺います。またオリーブについてですが、昨年度、購入費の 4 分の 3 を補助するオリーブ事業をはじめました。1134 本購入があり、また独自に苗木を購入したり、栽培場所を確保した農家もあると聞いています。過日の新聞報道によると、栽培は各農家の栽培環境にも左右され、試行錯誤が続いている、現在順調に育っている苗木は、町の試験圃場約 60 本で「3 分の 1 から 4 分の 1」農家全体では「半分程度」「農家からは、オリーブは町が言いだした話、苗木を配っただけではすまない」と販売を見据えた町の政策展開を求める声も上がっている、と報道されています。そこで私の提案ですが、片手間のオリーブ育成には限界があり、オリーブ課・おりーぶ班など職員専従のセクションを設置して、オリーブの育成や今後のオリーブ油などの製造・販売の知識や研究をしてほしい。また、企業や民間のオリーブ参入を促すためにオリーブ振興特区の設置や、町民に対してのオリーブ普及と理解のため、希望者にたいしてオリーブの苗木を配布したらと思いますが、町長のご見解を伺います。

次に、公共施設管理一元化の推進について伺います。

二宮町公共施設白書が完成いたしました。これによると町が運営管理している公共施設は 65 施設あり、多くの施設は建築してから 20 年以上経過しております。白書には「将来のまちづくりを考えていくうえで、現在ある公共施設が今後も必要なのか、検討を図ってきた」となっております。老朽化した公共施設は相次いで更新時期を迎える時期となり、施設の長寿命化や統廃合など適切に判断するためにも公共施設白書を作成したとお聞きしております。町が公共施設の数と耐用年数、借金の返済状況など把握したうえで、統廃合や長寿命化・改修工事・新築など計画的に進めていくことが必要であります。今後の具体的な計画を伺います。

4	根岸ゆき子議員	<p>①坂本町政は平成 22 年度に「未来に夢が持てる足腰の強い存在感ある町」というスローガンを掲げるとともに、平成 23 年度には、にのみや総合長期プラン“5つの重点プラン”を“3つの重点プロジェクト”として坂本カラーを組み入れた長期計画にも取り組み始めた。平成 24 年度はそれらを経て施策を実現化していったひとつの節目の年であったと考える。 そこで改めて、「未来に夢が持てる足腰の強い存在感のある町」とは何を目指したまちづくりなのか、総括を問う。</p> <p>②平成 24 年度は、総合計画が策定された。そこでも出されている人口減少と少子高齢化が進み世代構成にアンバランスが生じることに対応するまちづくりのあり方、について伺いたい。 総合計画によると平成 22 年度と平成 32 年度の比較で、二宮町 65 歳以上の人口は 1532 人の増加、0～14 歳以下の人口は、817 人の減少を迎える。65 歳以上の人口が最多となるのはわずか 7 年後である。町の介護保険特別会計決算状況は平成 20 年度からの 5 年で 2 億 5,214 万 8 千円の歳出の増加、国でも介護保険の総費用は 2011 年度に 8 兆円を突破し、今後、利用者の負担、支援金の負担、自治体の負担は国から移行してくる方向性にあると思われる。 来るべき時をどのように迎えるのか、町づくりと施策の進め方について、また、具体的に課題と捉えていることは何か、町の考えを問う。</p> <p>③公共施設と土地活用の一体化に向けた考え方を伺いたい。 町の土地活用については、必要な場所は活用し不要な場所は売却し自主財源として整理を進めてきた。一方、ラディアン裏購入、東大跡地購入、と大きな土地を所有し活用を図ろうとしている。 24 年度は公共施設白書も職員の手で作らば、これからのデータ作りに活用される場所である。しかし土地活用と公共施設のあり方については、東大跡地購入時に町のひとつの考え方として話があったが決まったものではない、とされて以降、展望が見えてこない。 今後、子育て支援施設整備事業、梅沢海岸背後地整備事業、公共施設改修整備事業、など長期かつ町の負担も大きい事業を予定している。このような事業計画を予定している中、24 年度で一息つくかと思われた土地の所有も KDDI が加わる交渉を始めている。KDDI については結論を急がず事を運んでいるとは見えるが、公共施設と土地活用を一体とした考え方を定めるべきではないのか。考え方について伺う。</p>
---	---------	--

備考：2 番目の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。